

令和3年度
阪南市外部評価委員会
報告書

令和3年9月

阪南市外部評価委員会

1. 答申書の提出にあたって

阪南市外部評価委員会は、評価視点の多角化により行政評価の客観性を向上し、総合計画の実効性を高めるため、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 138 条の 4 第 3 項の規定に基づき設置された。具体的には、総合計画に掲げられた施策に関する内部評価を検証することが主な役割である。

令和 3 年度は、6 月 28 日（月）に市長の諮問を受け、令和 2 年度の内部評価結果について検証するために、計 5 回の委員会を開催した。委員会では、外部評価の対象とする 6 施策を選定したのち、評価対象とした施策に関する担当課へのヒアリングを実施し、評価シートとヒアリングの内容を踏まえた審議を行った。

審議の結果、総合計画で掲げた目標の達成に向けて、課題があるものの、手法の改善などを行い前向きに取り組んでいる施策については、「★★：施策のめざす姿に近づいている」とし、とくに重要な課題があり、迅速な対応が必要である施策、これまで以上に積極的に具体的な活動に取り組む必要がある施策については、外部評価の判定区分を「★：施策のめざす姿にやや近づいていない」とした。また、一定の成果や改善に向けた取組が認められるものの、まだ解決すべき課題が残っている施策については、「★ 1. 5：施策のめざす姿に近づいてはいるがより改善が望まれる」という区分を設けた。

外部評価の判定については、総合計画に記載した目標の達成に向けて、これまで以上にさらなる取組の充実が必要であると委員会が判断した結果であると認識されたい。さらにこれらの評価結果をわかりやすく職員や市民に説明し、今後の施策の実施および次期総合計画の策定につなげることを期待する。とくに、今回のヒアリングでは、施策の効果をより高いものとするために庁内各部署の協力・連携をすすめる・深めることが期待される施策が散見された。政策共創室は各部署のコーディネートという役割を十分に発揮されたい。

最後に、この外部評価委員会の答申が、財政状況が厳しい中においても、総合計画に掲げた将来の都市像「ともにさかそう 笑顔とお互いさまのまち 阪南」の実現に向け、十分に活用されることを期待したい。

令和 3 年 9 月 6 日
阪南市外部評価委員会

2. 答申（対象施策の評価結果）

施策名 (施策コード)	市民協働社会の形成と促進 (101)	内部評価	★★	外部評価	★
判定理由	<p>市民協働事業提案制度の見直しのほか、市民と協働を進めるうえでかなめとなる「協働の指針」の策定に向けた指針に盛り込むべき事項や、地域の拠点である「住民センターのあり方」に関する答申をまとめるなど、阪南市における今後のまちづくりに大きく影響する取組をすすめることができた点は一定評価したい。</p> <p>その一方で、阪南市における協働によるまちづくりの推進に際して、自治会の加入世帯数の増加や市民活動センター機能の充実といった取組は、コロナ禍の影響があるからこそ、工夫を凝らし、より一層力を入れるべきと考える。また、「協働の指針」「住民センターのあり方」に関しては、答申を踏まえて今後市が指針や計画を策定し、実行にうつすという重要なフェーズはまだまだこれからであり、着実に進めていく必要がある。</p> <p>以上のことから、「施策のめざす姿にやや近づいている」と判断した。</p>				
委員提案 (令和4年度取組方針を策定する際に検討すべき意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は協働を進めていくため、他の部署と市民、市民間、団体間の調整に入るつなぎ役としての役割を果たすことにも力を入れてほしい。 ・市民協働社会の形成と促進のためには、市民も一緒に取り組む必要がある。関心が高い地域防災、楽しみながら取り組むことができる地域美化活動や地域のカフェなど、市民がまちづくりに『参画』できるようなきっかけを増やすことにも努められたい。 				

施策名 (施策コード)	情報発信の充実 (102)	内部評価	★★	外部評価	★★
判定理由	<p>広報誌や市ウェブサイト、Facebook、Twitter、阪南TVなどのツールを取り入れた情報発信をすすめていること、インターネット環境がない方への情報発信の方法を検討していること、成果指標の目標値を達成できていない理由を分析し、改善に向けて検討を進めていることなど、施策の担当課として施策の目指す姿の実現に向けて前向きに努力している姿勢を感じた。とくに広報誌において、市民が市政への関心を高めることができるように掲載内容や伝達手法を改善されていることは評価したい。</p> <p>一方で、市政に関する情報を入手できていない市民、そもそも関心を持っていない市民へのアプローチや、シティプロモーションを見据えた市外に向けた情報発信、マスコミに取り上げてもらう働きかけとしてのパブリシティの方法などに改善・工夫の余地がある。これらの部分を改善できると施策のめざす姿により近づくと考える。</p> <p>以上のことから、内部評価と同じく、「施策のめざす姿に近づいている」と判断した。</p>				
委員提案 (令和4年度取組方針を策定する際に検討すべき意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市政への関心を高めるため、情報のありかを知らない方や関心がない方へのアプローチを積極的に努められたい。 ・ 広く周知が必要な情報については、行政側の情報だけでなく、市民側が発信したいと考えている情報についても、これまで以上に積極的に吸い上げて発信に努められたい。 ・ 頑張っている市民の活動状況については、取材に行くなど、政策共創室等と連携をし、積極的な情報発信をお願いしたい。 				

施策名 (施策コード)	地域防災・減災の推進 (301)	内部評価	★	外部評価	★
判定理由	<p>今日、各地で想定外の災害が起きている中で、新型コロナウイルス感染症を理由に停滞させてはいけない重要な施策である。</p> <p>本施策の重要な成果指標であり、地域防災の基本となる自主防災組織の結成率は今後の効果も見込まれること、また、小・中学校の児童生徒を対象とした社会科学習・防災教育により市民の防災意識の向上を図る取組を進められていることは評価したい。</p> <p>一方で、市民と協力しながら、事業によっては市役所として積極的な働きかけをすべき状況であるにも関わらず、自主防災組織の結成や訓練の充実、消防団の欠員補充、災害時要援護者名簿の作成などにおいて、待ちの姿勢が垣間見える。防災と関わる福祉や交通といった施策およびその担当部署との連携・協力も、まだまだ強化させる余地が大きい。</p> <p>以上のことから、内部評価と同じく、「施策のめざす姿にやや近づいている」と判断した。</p> <p>この施策の重要性および緊急性は増しており、庁内各部署や市民や関連団体と協力して強力に進める必要があることを改めて指摘しておきたい。</p>				
委員提案 (令和4年度取組方針を策定する際に検討すべき意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災組織については、自治会単位にとらわれず、能動的な意欲のある人を自主防災のリーダーに育成するなど、制度の見直しを検討されたい。 ・ 交通防災や防災教育など、防災と連携できる分野が広がっていることから関係課や学校、各種団体等との連携した取組を一層進められたい。 ・ 関係課との連携のうえ、災害弱者（障がい・妊婦・日本語を話せない外国人などの自力で避難が難しく避難行動に支援を要する者）を支援する体制を強化していただきたい。 ・ 防災講座などをはじめ、防災コミュニティセンターを積極的に活用した取組を一層充実させていただきたい。 				

施策名 (施策コード)	学校教育の充実 (402)	内部評価	★★	外部評価	★1.5
判定理由	<p>タブレットの整備やオンライン会議の検討など工夫して事業に取り組んでいること、全国学力学習状況調査結果の分析などにより目標の達成に向けて足りない点や問題点を把握して、先生方や職員が前向きに改善に取り組んでいることは評価したい。</p> <p>一方で、成果指標の目標が達成できていないことに加え、計画していて実現できなかった取組が多くみられる。コロナ禍での事業実施が難しかったことは十分に理解するが、収束が見えない状況においては、子どもの学びの機会を確保するためにも、スピード感をもって実施方法の見直しや代替案の検討をすすめることが求められる。</p> <p>以上から、「施策のめざす姿に近づいている」と判断したが、より一層の改善を期待したい。</p>				
委員提案 (令和4年度取組方針を策定する際に検討すべき意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの子どもに目を向けて、家庭や親との連絡を密にするよう取り組まれない。 ・幼稚園、小学校、中学校の連携や接続の問題について、一層のきめ細やかな対応を図られたい。 ・財政状況が厳しい中においても、教育にかかる予算の充実および効果的な使い方を考えていただきたい。 				

施策名 (施策コード)	柔軟な行政経営の推進 (701)	内部評価	★	外部評価	★
判定理由	<p>第2期総合戦略や次期総合計画の策定、コロナ対策や広域連携、スマートシティ推進に向けた取組など、幅広く事業を実施していることは理解するものの、施策を評価するうえで重要となる成果指標は実績値が目標値と大きく乖離している状況にある。</p> <p>たとえば、「基本計画に掲げた成果指標の平均達成率」については、本施策が各施策の成果を高めるための支援を担う施策でもあることを考えると、より一層の取組が求められる。</p> <p>「人口社会増減数」については、社会情勢を考慮すると目標の達成は容易ではないと考えられるが、目標に近づけるべく具体策を積極的に講じてもらいたい。</p> <p>以上のことから、内部評価と同じく、「施策のめざす姿にやや近づいている」と判断した。</p>				
委員提案 (令和4年度取組方針を策定する際に検討すべき意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・次期総合計画においては、移住定住に関する具体的な取組を位置づけ、人口減少に対して取り組んでいただきたい。 ・移住定住を進めていくに際しては、現状分析をしっかりと行い、ターゲットを絞ったうえでプロモーション先や方法を設定するなど、より戦略的に進めていただきたい。 ・移住策として、移住を検討している方に阪南市での暮らしを実体験してもらうため、お試し移住を検討してはどうか。 				

施策名 (施策コード)	人材育成と適切な人事管理 (702)	内部評価	★★	外部評価	★
判定理由	<p>施策のめざす姿の実現に向けて、研修や採用試験、人事評価制度など個々の事業のもつ課題を把握し改善策を講じるなど、前向きに取り組んでいることは理解するものの、未だ成果が十分に出ているとは言い難い。</p> <p>とくに、早期や自己都合による退職者の割合の高さや、昇任試験の受験率の低下に関しては、職員のモチベーションを維持・向上させる方策を検討し講じることが早急に必要と考える。例えば、職員一人ひとりの意欲を引き出す人材の活用や、中長期的に人材が育つ環境づくりを進めることが重要となろう。そのためには、職員の意識や場合によっては組織風土を見直す必要が生じる。これは施策の担当課だけではなく、組織全体で積極的に取り組むべき課題であると認識してほしい。</p> <p>以上のことから、「施策のめざす姿にやや近づいている」と判断した。</p>				
委員提案 (令和4年度取組方針を策定する際に検討すべき意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民ニーズや地域が抱える課題が複雑多様化する中、職員がそれらに対応するために、これまで以上に職場の協力体制の充実や、職員一人ひとりが専門的な能力を身につけることができる人材育成に努められたい。 ・ 若年者の定着率を向上させるため、若年の意識の変化を捉えつつ、職員のモチベーションを維持・向上させる方策を検討いただきたい。 ・ 昇任試験制度については、受験率が低い原因を分析するとともに、職員の昇格意欲が上がるように制度の見直しを検討されたい。 ・ 人事評価の結果をさまざまな場面で活用するのであれば、評価者研修・被評価者研修の充実や、中間面談や四半期面談の実施、多面評価制度(360度評価)など、評価制度の透明性・納得性・信頼性を高めるための方策を十分に検討・実施されたい。 				

3. 阪南市の行政評価制度について

行政評価制度に関する職員の理解は一定程度深まってきていると考えられるが、職員の理解を継続して深めるためにも、今年度の外部評価の結果を全庁で共有していただきたい。

今後、より一層精度と効果の高い行政評価制度とするために、評価の仕組み全体について改善すべき点は以下のとおりである。

ここで指摘した事項にどのように対応したかについては、次年度の内部評価実施前に報告していただきたい。

① 施策の判定に関して

これまでの5回の外部評価は、行政による内部評価と外部評価委員による外部評価の判定に大きな乖離があった施策や判定に違いが生じた施策が多く見られた。6回目となった今年度は、これまでより判定結果の乖離が縮小してきていることから、判定の考え方などが庁内に浸透しつつあるものとする。事務局は、引き続き、判定の考え方や内部評価において検討すべき点を明示するとともに、ヒアリング実施時に十分な問題提起を行っていただきたい。

② 外部評価を実施する施策件数に関して

ヒアリングの施策件数については、ヒアリングのスケジュールやヒアリング時間などを踏まえると6施策が概ね妥当であるとする。

また、昨年度の答申書の意見を踏まえ、今年度においては、開催時刻を30分繰り上げて午後6時からの開始に見直したところである。

働き方改革を推進している一方で、本委員会の開催により、職員の時間外労働が発生している状況にある。本委員会の勤務時間内の開催については、日常業務がある中で日程調整、市民公募委員の参画や傍聴のしやすさなどの課題があると承知しているものの、職員の働き方や人件費コストの削減につながることから一度検討いただきたい。

③ 成果指標に関して

成果指標は、施策のめざす姿の達成状況を計測するものであり、施策評価の判定を行ううえで、とても重要なものとする。しかしながら、各施策に設定された成

果指標は、施策を構成する主な事務事業に関する指標が多いという印象を受けた。

次期総合計画の策定においては、まずは施策のめざす姿を具体的に考えたうえで、その達成状況をしっかりと検証できる指標を、他団体が用いている指標等を参考にしながら設定していただきたい。

また、成果指標の目標値の設定については、施策評価に大きく影響することから、現状値からの積み上げにとどまらず、設定の根拠を明確にしていきたい。

④ 評価シートの構成に関して

本来施策評価は、施策のめざす姿を踏まえて、当該年度にどのような取組方針を作成し、取組方針を受けて施策をいかに実現し、どのような効果があったかをPDCAサイクルに沿って検証するものであり、評価シートはそれができる構成となっている。自己評価を実施する際には、評価シートとその構成の意図を十分に理解、意識していただきたい。

また、今年度、施策ごとに事務事業ごとのコスト欄を追記いただいたが、施策全体の正確なコストが把握できるようさらなる施策シートの見直しを検討いただきたい。

4. 令和3年度 阪南市外部評価委員会開催日程

開催日時等	委員会の議事
第1回 6/21(火)18:00～ (会場) 3階全員協議会室	①市長挨拶 ②委員紹介 ③委員長・副委員長の選出 ④市長から委員長へ諮問 ⑤外部評価実施要領について ⑥評価対象施策の選定 ⑦質問票の配布
第2回 7/5(月)18:00～ (会場) 3階全員協議会室	①ヒアリング 第4章 施策2「学校教育の充実」 第1章 施策2「情報発信の充実」 ②判定区分等について協議
第3回 7/12(月)18:00～ (会場) 3階全員協議会室	①ヒアリング 第7章 施策1「柔軟な行政経営の推進」 第1章 施策1「市民協働社会の形成と促進」 ②判定区分等について協議
第4回 7/19(月)18:00～ (会場) 3階全員協議会室	①ヒアリング 第3章 施策1「地域防災・減災の推進」 第7章 施策2「人材育成と適切な人事管理」 ②判定区分等について協議
第5回 8/5(木)18:00～ (会場) 3階全員協議会室	①外部評価（ヒアリング）結果（案）のとりまとめ ②外部評価委員会の振り返り ③市長への答申の取り扱い ④会議録（案）の確認

【阪南市外部評価委員 *五十音順】

氏名（敬称略）	区分	備考
尾川 富美子（おがわ ふみこ）	市民	
掛谷 純子（かけや じゅんこ）	学識経験のある者	副委員長
木村 耕造（きむら こうぞう）	市民	
寺田 雄揮（てらだ ゆうき）	市民	
壬生 裕子（みぶ ひろこ）	学識経験のある者	委員長